

平成24年度 鹿児島大学法科大学院 入学者選抜試験（二次募集）

小論文 出題の意図

■設問Ⅰ

出典：

碧海純一「現代法解釈学における客観性の問題」『岩波講座 現代法』第15巻（1966年、岩波書店）3頁最終行から7頁最終行まで。小問2は、来栖三郎「法の解釈と法律家」私法11号22頁（1954年）

本文は、法律学における「客観性」とは何であるかを論じた著作の一部分である。該当部分では、社会科学一般における「客観性」の問題について、カール・ポパーやマックス・ウェーバーの諸説を引用しながら、その当否が検討されている。

小問1は、問題文に含まれている諸説の内容を正しく読み解くことができるかどうか、また、筆者が諸説のいずれに同調するものであるかを正しく読み解くことができるかどうかを試すものである。

小問2は、小問1で読み解いた社会科学における「客観性」についての筆者の立場を踏まえながら、これを応用して、法律学における客観性について触れた別の文章を論評するものである。読解力のみならず、そこで得た知見をもとに別の事象を論じる応用力と表現力を試している。

■設問Ⅱ

本問は、架空の鉄道会社における女性専用車両の導入について、具体的な提言を行うものである。表中の所与のデータ（具体的な事実）を分析して評価を加えながら、具体的に妥当な結論を論理的・説得的な文章で表現することが求められている。分析力、論理的思考力、文章による表現能力を試すものである。